

## 令和元年度第1回「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」を開催しました！

令和元年度第1回『医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会』を10月3日(木)に総合市民会館山の都アリーナにて開催しました。第1回目は南地域包括支援センター、南西地域包括支援センター及び笛南地域包括支援センターの支援エリアに所在する医療機関、介護保険サービス提供事業所等を中心に、188名の方にご参加いただきました。



進行役  
金山 美穂子 氏

進行は笛南地域包括支援センターの金山美穂子氏、話題提供は山梨県中北保健福祉事務所の岡田恵子氏、事例提供は山梨県介護支援専門員協会甲府支部の茂木そのみ氏に務めていただきました。

話題提供では、「想いのマップ」の目的や内容をご紹介いただくとともに、活用事例を挙げながら「療養者の記載した内容を基に、内なる想いを汲み取ることや、それに寄り添い多職種内で共有することが、より良いケアの提案や実践につながっていくこと」についてお話しいただきました。



話題提供者  
岡田 恵子 氏



事例提供者  
茂木 そのみ 氏

その後の座談会では25グループに分かれ、事例設定として「院内療養から自宅に帰ることを望む終末期の療養者に対し、その方の想いをかなえるために自分の職種ができる支援」について、専門性を活かしながら多角的な意見交換を行いました。

様々な職種が入り混じって構成されたグループ内では、1人の専門職として出来ることを提示するところから始まり、次第に「事例対象者を支えるためのチーム」として、互いに補強したり、連携したりできることを確認し、生活状況や周囲との関係性も踏まえた上で、「対象者が最期まで自分らしく生きるために何が出来るのか」について、熱心に話し合いました。

交流会中盤では、グループで出た意見を全体共有するために、10のグループの代表者に発表をしていただきました。

発表者からは、「一般的な支援方法に当てはめるのではなく、療養者の想いや価値観を知ることによって、生きる力を高めるような質の良い提案をすることができる」という意見や、「自分の職種で出来ることを、もっと職種を超えて周知し支援につなげたい」という意見など、『療養者の想い』『多職種連携』をキーワードとした感想や意見を多くいただきました。



交流会終盤には参加者を代表して、医師・介護支援専門員・薬剤師から、交流会の感想をいただきました。「総合病院では多職種が揃っているが、個人医院ではそうではないため、こうした機会は互いの視点を知ることができて貴重である」「座談会を通じて他職種の役割が見えてきたため、今後もそれを理解し関わっていけたらいいと思う」「普段は会えない様々な職種の方と言葉を交わすことが出来て、大変ためになった」という想いが語られ、交流会は盛会のうちに終了しました。

交流会の様子を  
掲載します！

